

# IPA 情報発信第 161 号 (2017 年 9 月)

2017 年 10 月 2 日

独立行政法人情報処理推進機構 (IPA)

理事長 富田 達夫

## <IPA 情報発信第 161 号の内容>

### 今月のトピックス

#### 1. 世界的な IT スキル標準「SFIA」と IPA の「iCD」の連携強化 ～英国 SFIA Foundation と相互協力協定を締結～

現在 163 カ国で活用されている世界的な IT スキル標準「SFIA」を提供する SFIA Foundation と相互協力協定を締結しました。

#### I. 安全な IT 社会の実現

1. Apache Struts2 の脆弱性対策情報一覧
2. 「海外のプロテクションプロファイルの翻訳」を新たに公開
3. 注意喚起 Windows アプリケーションの利用における注意
4. 重要なセキュリティ情報 (9 月)

#### II. IT システムの安心・安全の確保と開発・利活用の効率化

1. 「システムズエンジニアリング推進ワーキング・グループ」が発足
2. 「非機能要求グレード改訂ワーキング・グループ」が発足
3. 「管理者層交流会」にて講演
4. 「鳥取県の未来を創るスマート IT 技術セミナー～IoT の安全・安心とプロジェクト管理の勘どころ～」にて講演
5. SEC セミナー開催報告 (9 月) と SEC セミナー開催案内 (10 月)

#### III. 未来の IT 社会を担う人材の育成とビジネス支援・技術開発促進

1. 「セキュリティ・キャンプ九州 in 福岡 2017」を開催
2. 「セキュリティ・ミニキャンプ in 関東 2017 (甲府)」を開催
3. 平成 29 年度秋期「情報処理安全確保支援士 (登録セキスペ) 試験」および「情報処理技術者試験」の応募者数について

## 今月のトピックス

### 1. 世界的な IT スキル標準「SFIA」と IPA の「iCD」の連携強化 ～英国 SFIA Foundation と相互協力協定を締結～

(担当：HRD イニシアティブセンター)

IPA は、産業界における IT 人材育成の支援を目的とした「i コンピテンシ ディクショナリ<sup>1</sup> (iCD)」の充実を図るため、世界的な IT スキル標準「SFIA<sup>2</sup>」を提供する英国の SFIA Foundation<sup>3</sup>との比較共同調査を今年 9 月に開始しました。また、これに先立ち、SFIA Foundation との相互協力協定を 9 月 4 日 (月) に締結しました。

「SFIA」は、現在 163 カ国で活用されている IT スキル標準です。今回の共同調査では、「SFIA」と「iCD」の構造比較や、「SFIA」の各カテゴリーのスキルと「iCD」のタスクとのマッピングなどを、2 年半にわたって段階的に行います。

なお、調印式はロンドンで、IPA 理事長と SFIA Foundation Chairman によって行われました。

IPA は、本協定を通じて、「iCD」に最新のスキル標準が搭載され、国内の利用者増加や、世界の SFIA 利用者に「iCD」が広く認知されることを期待します。

「SFIA と iCD の連携強化」の詳細については、次の URL をご覧ください。

<https://www.ipa.go.jp/about/press/20170905.html>

## I. 安全な IT 社会の実現

### 1. Apache Struts2 の脆弱性対策情報一覧

(担当：セキュリティセンター)

IPA は、9 月 7 日 (木) に Apache Struts2 の脆弱性対策情報一覧を公開しました。

「Apache Struts<sup>4</sup>」はウェブアプリケーションを開発するためのソフトウェアフレームワークで、Apache Software Foundation (以下、ASF) から提供されています。日本国内ではウェブサイト構築に大変多く利用されており、その結

<sup>1</sup> 企業において IT を利活用するビジネスに求められる業務(タスク)と、それを支える IT 人材の能力や素養(スキル)を「タスクディクショナリ」、「スキルディクショナリ」として体系化したもの。

<sup>2</sup> SFIA (Skills Framework for the Information Age)

<sup>3</sup> SFIA Foundation <https://www.sfia-online.org/en>

<sup>4</sup> Apache Software Foundation: Welcome to the Apache Struts project <https://struts.apache.org/>

果、「Apache Struts」で構築されたウェブサイトは相当数存在すると考えられます。

ウェブサイトはインターネット上に一旦公開すると 24 時間 365 日いつでもどこからでもアクセスが可能です。

そのため、ウェブサイトに脆弱性が存在した場合、それを放置すると、情報漏えい等の被害を受ける可能性もあります。こうした事態を避けるため、ASF より「Apache Struts」の修正パッチが公開された際には、速やかに修正パッチを適用する必要があります。

本ページはウェブサイトを構築する事業者（SIer 等）の活用を想定しています。構築したシステムや運用保守中のシステムで「Apache Struts」を使用している場合は、該当の脆弱性対策情報の有無を本ページの脆弱性対策情報一覧から確認し、必要に応じてアップデートするなどの対処を行ってください。

「Apache Struts2 の脆弱性対策情報一覧」の詳細については、次の URL をご覧ください。

[https://www.ipa.go.jp/security/announce/struts2\\_list.html](https://www.ipa.go.jp/security/announce/struts2_list.html)

## 2. 「海外のプロテクションプロファイルの翻訳」を新たに公開

(担当：セキュリティセンター)

IPA は、9 月 26 日（火）に「海外のプロテクションプロファイル<sup>5</sup>の翻訳」を新たに公開しました。

IPA は、政府機関や企業の調達担当者などが IT 製品や情報システムの調達要件の検討の際に役立つ資料として、CCRA<sup>6</sup>加盟国が IT 製品の技術分野ごとに作成したプロテクションプロファイルの一部を翻訳し、2012 年 4 月から IPA のウェブサイトにて公開しています。

今回は次の 5 件を新たに掲載しました。

- ・ボイス／ビデオオーバーIP（VoIP）エンドポイントの拡張パッケージ、バージョン 1.0、2016 年 9 月 28 日 [翻訳第 1.0 版]
- ・無線侵入検知／防止システム（WIDS/WIPS）の拡張パッケージ、バージョン 1.0、2016 年 10 月 6 日 [翻訳第 1.0 版]
- ・TEE プロテクションプロファイル、バージョン 1.2.1、2016 年 11 月 [翻訳第 1.0 版]
- ・無線 LAN アクセスシステムの拡張パッケージ、バージョン 1.0、2015 年 5 月 29 日 [翻訳第 1.0 版]
- ・無線 LAN クライアントの拡張パッケージ、

<sup>5</sup> Protection Profile:IT 製品等のセキュリティ要件を ISO/IEC 15408 に基づいて記述した要求仕様書

<sup>6</sup> CCRA(Common Criteria Recognition Arrangement) :CC 国際承認アレンジメント

バージョン 1.0、2016 年 2 月 8 日 [翻訳第 1.0 版]

なお、IT セキュリティ評価、及び認証制度における適合プロテクションプロファイルとして利用する場合は、各国の認証機関のウェブサイトで公開されている原文をご利用ください。

「海外のプロテクションプロファイルの翻訳」の詳細については、次の URL をご覧ください。

<http://www.ipa.go.jp/security/publications/pp-jp/index.html>

### 3. 注意喚起 Windows アプリケーションの利用における注意

(担当：セキュリティセンター)

IPA は、Windows アプリケーションの利用に関する注意喚起を実施するとともに、プレスリリース「【注意喚起】Windows アプリケーションの利用における注意」を 9 月 28 日（木）に公開しました。

2017 年 4 月から 8 月末までに JVN<sup>7</sup>にて公表された“DLL 読み込み”の脆弱性は 53 件で、それ以前（2017 年 1 月から 3 月は 4 件）までと比べて急増しています。

この脆弱性は、Windows アプリケーション（以下、アプリケーション）に起因する問題です。広く普及している Windows ゆえ、この脆弱性が存在するアプリケーションは多く、JVN で公表されているものは、氷山の一角といえます。加えて、対象のアプリケーションが対策済みかどうか、利用者自身が確認するのは困難です。

そこで、利用者の自衛のため、回避策を示し、対策を促す注意喚起を行いました。

「注意喚起 Windows アプリケーションの利用における注意」の詳細については、次の URL をご覧ください。

<https://www.ipa.go.jp/about/press/20170928.html>

### 4. 重要なセキュリティ情報（9 月）

(担当：セキュリティセンター)

IPA では、インターネットを使っている多くの利用者が影響を受けるセキュリティ対策情報を対象に「重要なセキュリティ情報<sup>8</sup>」として公開しています。

---

<sup>7</sup> Japan Vulnerability Notes

<sup>8</sup> 「重要なセキュリティ情報」は、次の基準で対策の緊急度を表しています。

「緊急」・・・影響度の高いセキュリティ上の問題があると公表された情報でかつ、当該問題を悪用した攻撃が実際に行

「重要なセキュリティ情報」とは、放っておくと不正アクセスやデータが盗まれるなどの危険性が高いセキュリティ上の問題と対策についてお伝えするもので、IPA 情報発信では 2013 年 12 月より広く啓発するため記載しています。発信情報から、ご自身の PC やシステムへの影響を判断の上、速やかな対策を心がけてください

9 月は、「緊急」1 件、「注意」5 件を公開しました。

重要なセキュリティ情報の詳細については、次の URL をご覧ください。

<https://www.ipa.go.jp/security/announce/alert.html>

## II. IT システムの安心・安全の確保と開発・利活用の効率化

### 1. 「システムズエンジニアリング推進ワーキング・グループ」が発足

(担当：ソフトウェア高信頼化センター)

IPA は、9 月 4 日（月）に「システムズエンジニアリング推進ワーキング・グループ」を設置し、その活動内容を公開しました。

近年、第 4 次産業革命をもたらすと言われている IoT の進展や、独立したシステムが互いに関係し合って価値を提供する SoS (System of Systems) のような複雑なシステムの増加、また、システムに対する要求の多様化、高度化、複雑化、予測できないリスク、関連する分野の調和や統合の欠如など、システム開発を取り巻く課題も難しくなっており、解決が困難になってきています。

IPA では、このようなシステム開発における課題の効果的かつ包括的な解決方法として、欧米で宇宙・航空分野を中心に実績があるシステムズエンジニアリングが他分野においても有効であると考え、産業界に普及・展開する活動を開始し、2016 年度にシステムズエンジニアリングの認知と重要性の認識を促すための啓発書（経営者及び開発者のための「システムズエンジニアリング導入の薦め」<sup>9)</sup>）を公開しました。

本ワーキング・グループでは、今後、各業界においてシステムズエンジニアリングを導入し、システム/サービスの企画・開発に取り組もうとするマネジメント層・リーダー・担当者に向けて、基本的なシステムズエンジニアリングのプロセスなどを紹介するとともに事例の解説を行うなど、システムズエンジニ

---

われているケース。

「注意」・・・影響度の高いセキュリティ上の問題があると公表された情報又は、当該問題を悪用した攻撃が行われる可能性があるケース。

<sup>9)</sup> IoT 時代の複雑なシステムの企画や品質の確保に有効とされている「システムズエンジニアリング」の適用事例や有効性を紹介し、導入を進める一助となることを目的とした資料。<http://www.ipa.go.jp/sec/reports/20170329.html>

アリングの導入・活用のヒントを取りまとめ、入門書に相当する「基礎解説書」（仮称）を作成します。議論の内容は逐次公開していきます。

IPA は、システムズエンジニアリングの普及・展開活動を通して、IoT 時代に対応したシステム構築能力の強化に貢献していきます。

『システムズエンジニアリング推進ワーキング・グループ』が発足」の詳細については、次の URL をご覧ください。

<http://www.ipa.go.jp/sec/info/20170904.html>

## 2. 「非機能要求グレード改訂ワーキング・グループ」が発足

（担当：ソフトウェア高信頼化センター）

IPA は、9 月 26 日（火）に「非機能要求グレード改訂ワーキング・グループ」を設置し、その活動内容を公開しました。

IPA では、非機能要求グレード<sup>10</sup>の確認を行うツール群（初版）を 2010 年 4 月に公開<sup>11</sup>しましたが、公開から現在までに 7 年ほど経過しており、その間に、新たなセキュリティ脅威の登場や、システム基盤技術の進展、クラウドに代表されるシステム形態の多様化などが進み、初版公開当時から、非機能要求の要求度合いや実現方法に変化が生じてきています。

本ワーキング・グループでは、これらの変化に対応し、非機能要求グレードを改訂することで、非機能要求の定義漏れを防止し、また更なる利用促進を図ることを目的として活動します。

IPA は、IoT 時代の到来により想定される情報システムの開発要件の不確実性の拡大などに対応するため、今後もシステム構築における上流工程の機能強化に貢献していきます。

『非機能要求グレード改訂ワーキング・グループ』が発足」の詳細については、次の URL をご覧ください。

<http://www.ipa.go.jp/sec/info/20170926.html>

## 3. 「管理者層交流会」にて講演

（担当：ソフトウェア高信頼化センター）

IPA は、9 月 14 日（木）にザ・ニューホテル熊本（熊本県熊本市）で行われた「管理者層交流会」にて講演しました。

<sup>10</sup> 「非機能要求」とは、ハードウェア、OS、ミドルウェア、データベースといった情報システム基盤の強度や品質に関する要求を指す。「非機能要求グレード」とは、同システム基盤の可用性や拡張性などの要求を明確化し、システムを発注する側（ユーザ企業）とシステムを開発する側（開発企業）で合意形成するための手法。

<sup>11</sup> <http://www.ipa.go.jp/sec/softwareengineering/reports/20100416.html>

本交流会は一般社団法人熊本県情報サービス産業協会（KISIA<sup>12</sup>）による主催で、地震による被災県として熊本県と交流関係にある宮城県の一般社団法人宮城県情報サービス産業協会（MISA<sup>13</sup>）も参加し、双方向で取組み内容の紹介が行われました。

IPAは「IT 障害事例の分析と教訓情報の共有のすすめ」というテーマで講演し、盛況のうちに終了しました。

IPAでは、今後も障害事例情報共有の取組みを紹介し、その障害情報を教訓として情報共有することの重要性を説明する活動を通して、情報処理システムの信頼性向上に貢献していきます。

#### 4. 「鳥取県の未来を創るスマート IT 技術セミナー～IoT の安全・安心とプロジェクト管理の勘どころ～」にて講演

（担当：ソフトウェア高信頼化センター）

IPAは、9月19日（火）にとりぎん文化会館（鳥取県鳥取市）で行われた「鳥取県の未来を創るスマート IT 技術セミナー～IoT の安全・安心とプロジェクト管理の勘どころ～」にて講演しました。

本セミナーは一般社団法人鳥取県情報産業協会（TIA<sup>14</sup>）による主催で、会員企業及び鳥取県内企業の経営者等を対象に IoT 時代のソフトウェアの価値と安全・安心について紹介し、地域の IoT 推進活動を通じて IoT の利活用に向けた課題発見の一助になることを目的に行われました。

IPAは「安全・安心を先取りした IoT 機器・システムを開発するために！～経営者や開発者に考慮して欲しい開発のポイントを紹介～」、「IoT 時代にも効果的なプロジェクト管理～定量的マネジメントによる持続的イノベーション～」という2つのテーマで講演し、盛況のうちに終了しました。

IPAでは、今後も情報処理システムの信頼性向上に向けて、つながる世界の安全・安心を実現するための取組みや定量データを活用した開発の重要性に関する普及活動を継続していきます。

『「鳥取県の未来を創るスマート IT 技術セミナー～IoT の安全・安心とプロジェクト管理の勘どころ～」にて講演』の詳細については、次の URL をご覧ください。

<http://toia.jp/event/1873.html>

<sup>12</sup> KISIA(Kumamoto Information Service Industry Association): 熊本県の情報サービス産業の発展と地域の情報化を図り、産業の活性化と地域社会の発展に寄与することを目的とする一般社団法人。

<sup>13</sup> MISA(Miyagi Information Service Industry Association): 宮城県内における情報開発技術の利用促進・水準向上並びに人材の育成、普及啓蒙を行うことにより、地域社会の高度情報化の促進を図り、宮城県における経済及び社会の発展に寄与することを目的とする一般社団法人。

<sup>14</sup> TIA(Tottori Information Industry Association): 情報関連産業に係る人材育成、調査研究、普及啓発等の事業を行うことにより、鳥取県の情報関連産業の振興と県内の情報化の促進を図り、鳥取県経済・社会の発展に貢献することを目的とする一般社団法人。

## 5. SEC セミナー開催報告（9月）と SEC セミナー開催案内（10月）

（担当：ソフトウェア高信頼化センター）

IPAは、事業成果を広く普及・啓発することを目的としたセミナー、ソフトウェア・エンジニアリングに関する国内外の最新動向などを紹介する特別セミナーをそれぞれ実施しています。

9月は、次の日程で実施しました。

- ・システムの信頼性向上に向けたソフトウェア開発定量管理の勧め～定量的データに基づくソフトウェア開発のプロセス改善を目指して～（9月6日）

<http://sec.ipa.go.jp/seminar/20170906.html>

- ・【北海道開催】デジタルイノベーションで創る“スマートな北海道”～経営者に必須な「IoT導入の指針とつながる世界の要件定義の重要性」の解説～（9月7日）

<http://sec.ipa.go.jp/seminar/20170907.html>

- ・「システム再構築を成功に導くユーザガイド」を用いたシステム化計画の策定～再構築のリスクと対策の合意に向けて～（9月12日）

<http://sec.ipa.go.jp/seminar/20170912.html>

- ・事例から学ぶITサービス高信頼化へのアプローチ（第2回）～障害事例から根本原因を分析し教訓化するプロセスを学習～（9月13日）

<http://sec.ipa.go.jp/seminar/20170913.html>

- ・京都から紡ぐ未来の安全・安心とは？～IoT時代のソフトウェア開発へのモデリング活用～（9月22日）

<http://sec.ipa.go.jp/seminar/20170922.html>

- ・IoT時代のシステム開発の課題に立ち向かう～システムズエンジニアリング導入の勧め～（9月27日）

<http://sec.ipa.go.jp/seminar/20170927.html>

10月は、次の日程で開催を予定しています。

- ・つながる世界に求められる利用時の品質～安全安心を実現するためにソフトウェア設計者が考慮すべきこと～（10月4日）

<http://sec.ipa.go.jp/seminar/20171004.html>

- ・マネージャが現場で使える定量的なプロジェクトマネジメント～プロジェクトの動的管理と静的管理について～（10月24日）

<http://sec.ipa.go.jp/seminar/20171024.html>



- ・コーディングで守るサイバーセキュリティ～ESCRによるセキュアコーディングのススメ～（10月31日）

<http://sec.ipa.go.jp/seminar/20171031.html>

### **Ⅲ. 未来のIT社会を担う人材の育成とビジネス支援・技術開発促進**

#### **1. 「セキュリティ・キャンプ九州 in 福岡 2017」を開催**

（担当：イノベーション人材センター）

IPAは、セキュリティ・キャンプ九州実施協議会、セキュリティ・キャンプ実施協議会と共同で「セキュリティ・キャンプ九州 in 福岡 2017」を9月1日（金）から3日（日）までの3日間開催しました。

福岡県でのセキュリティ・キャンプ地方大会の開催は5回目で、専門講座を実施しました。専門講座（参加者16名）では、情報セキュリティ技術者が身に付けておくべき、技術の利用に関する法的知識について学ぶ講義や、講義用に用意したネットワークに接続された端末の通信を確認し、それが攻撃であるかの判断やどういった防御の対処を取ればよいのかを学ぶ講義などが行われました。

「セキュリティ・キャンプ九州 in 福岡 2017」の詳細については、次のURLをご覧ください。

[http://www.ipa.go.jp/jinzai/camp/2017/camp2017\\_fukuoka.html](http://www.ipa.go.jp/jinzai/camp/2017/camp2017_fukuoka.html)

#### **2. 「セキュリティ・ミニキャンプ in 関東 2017（甲府）」を開催**

（担当：イノベーション人材センター）

IPAは、国立大学法人山梨大学、特定非営利活動法人山梨ICT&コンタクト支援センター、セキュリティ・キャンプ実施協議会と共同で「セキュリティ・ミニキャンプ in 関東 2017（甲府）」を9月23日（土）から24日（日）までの2日間開催しました。

山梨県でのセキュリティ・ミニキャンプ地方大会の開催は2回目で、一般講座と専門講座の2講座を実施しました。

一般講座（参加者92名）では、理事長による開演挨拶に加え、IoT機器の利用者が認識すべきセキュリティ対策について、一般向けの啓発講演などが行われました。

また、専門講座（参加者21名）では、自作したパケットでWebサーバと通信し、その仕組みについて学ぶ講義などが行われました。

「セキュリティ・ミニキャンプ in 関東 2017（甲府）」の詳細については、次のURLをご覧ください。

### 3. 平成 29 年度秋期「情報処理安全確保支援士（登録セキスペ）試験」および「情報処理技術者試験」の応募者数について

（担当：情報処理技術者試験センター）

IPA は、平成 29 年度秋期「情報処理安全確保支援士（登録セキスペ）試験」及び「情報処理技術者試験」（所管：経済産業省、10 月 15 日（日）実施）の応募者数を 9 月 4 日（月）に公表しました。

■ 「情報処理安全確保支援士（登録セキスペ）試験」の応募者数について

平成 29 年度秋期「情報処理安全確保支援士（登録セキスペ）試験」の応募者数は、23,425 人となりました。

■ 「情報処理技術者試験」の応募者数について

平成 29 年度秋期「情報処理技術者試験」の応募者数は、前年同期比 100.7%の 189,590 人となりました。

各試験区分の応募者数は、情報セキュリティマネジメント試験、応用情報技術者試験を除き、前年同期と比較して増加しました。また、情報セキュリティマネジメント試験の応募者数は 20,907 人と、平成 28 年度春期の試験開始以来 4 期連続で 2 万人以上の受験申込みがありました。

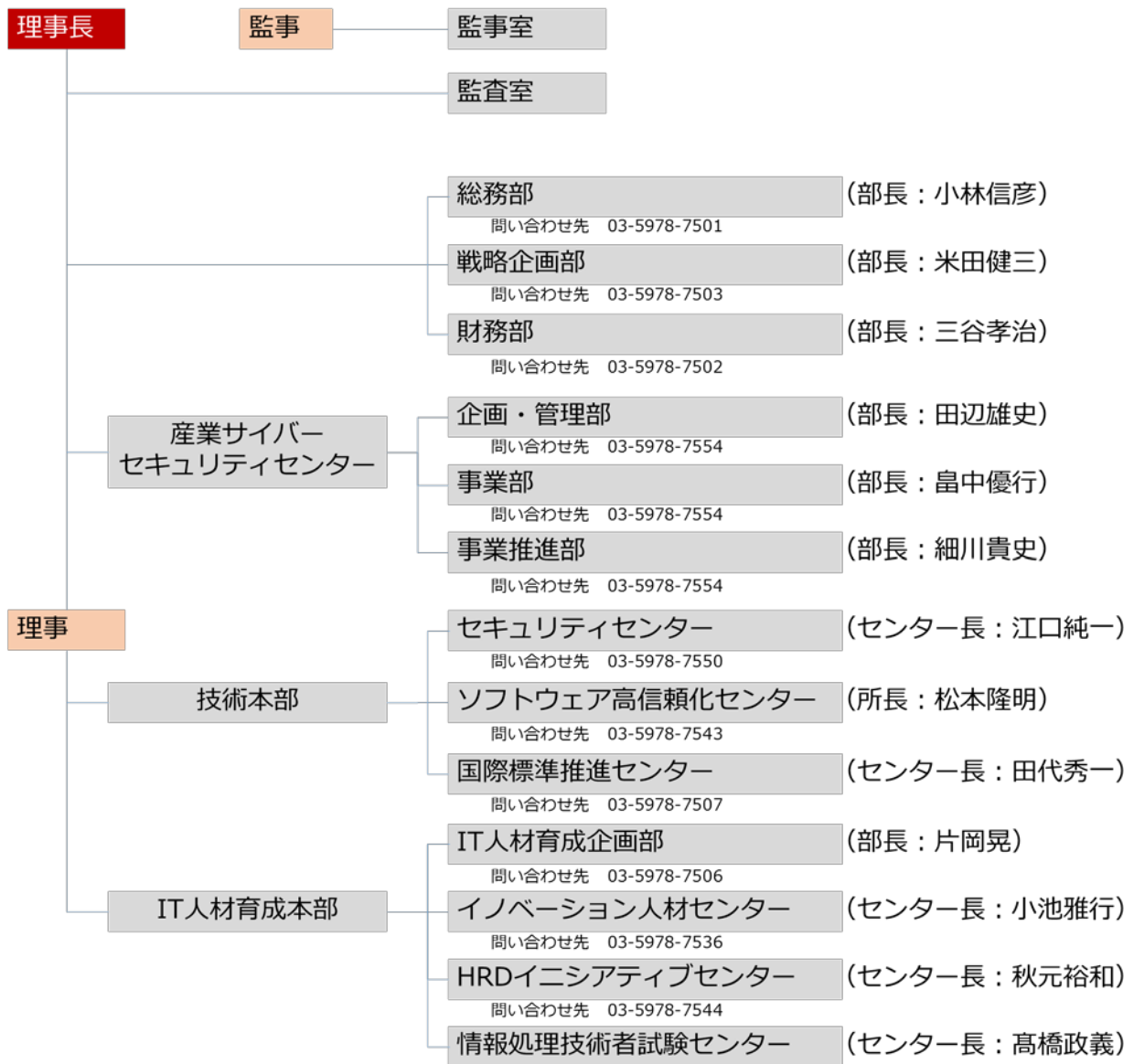
	今回の 応募者数	前年同期 応募者数	前年同期 比
情報処理安全確保支援士（登録セキスペ）試験	23,425	-	-
情報処理技術者試験（旧試験区分を除く合計）	189,590	188,334	100.7% <sup>15</sup>
情報セキュリティマネジメント試験	20,907	22,186	94.2%
基本情報技術者試験	76,717	75,095	102.2%
応用情報技術者試験	50,969	52,845	96.4%
高度試験（旧試験区分を除く合計）	40,997	38,208	107.3%
ITストラテジスト試験	6,984	6,676	104.6%
システムアーキテクト試験	8,678	8,157	106.4%
ネットワークスペシャリスト試験	19,556	18,096	108.1%
ITサービスマネージャ試験	5,779	5,279	109.5%
【旧】情報セキュリティスペシャリスト試験	-	32,492	-

<sup>15</sup> 旧試験区分である「情報セキュリティスペシャリスト試験」を除く。

「平成 29 年度秋期情報処理安全確保支援士（登録セキスペ）試験および情報処理技術者試験の応募者数について」については、次の URL をご覧ください。

<http://www.ipa.go.jp/about/press/20170904.html>

●IPA 組織図



本書に関するお問合せ先  
 戦略企画部 企画・調査G 福島・野村  
 〒113-6591  
 東京都文京区本駒込二丁目 28 番 8 号  
 文京グリーンコートセンターオフィス  
 TEL : 03-5978-7503  
 E-mail : spd-plan@ipa.go.jp